

1. 北海道（地域別調査機関：株式会社北海道二十一世紀総合研究所）

（ - : 回答が存在しない、 : 主だった回答等が存在しない）

分野	景気の現状判断	業種・職種	判断の理由	追加説明及び具体的状況の説明	
家計 動向 関連 (北海道)	良く なっている	-	-	-	
	やや良く なっている	一般小売店〔土産〕（経営者）	単価の動き	・依然として、新千歳空港を利用する訪日外国人が前年から30～50%ほど伸びている。また、消費税免税制度の対象品目の拡大により、客単価が前年より上昇していることもあり、爆買いとまではいかないが、好調な売上が続いている。	
		スーパー（役員）	お客様の様子	・観光客の増加、プレミアム付商品券の発行など、様々なプラス要因の積み重ねで消費が伸びている。	
		衣料品専門店（店長）	来客数の動き	・前年と比べて、買上客数が約10%の増加となっている。特に多くのサラリーマンが休みとなる休日の売上は、毎週、良い数字となっている。	
		その他専門店〔医薬品〕（経営者）	お客様の様子	・10月は客の財布のひもがやや緩いようだ。ここ数か月みられなかった良い傾向である。	
		その他専門店〔ガソリンスタンド〕（経営者）	販売量の動き	・石油製品価格が前年よりも割安で安定しているため、販売量が比較的好調である。	
		観光型ホテル（スタッフ）	来客数の動き	・プロ野球クライマックスシリーズにおける地元球団の敗退により、予約客のキャンセルが相次いだものの、恒常的に堅調な中国、台湾からの外国人観光客で補てんできた。休前日の国内旅行客の利用も好調である。	
		旅行代理店（従業員）	お客様の様子	・来店客が増加している。平日の来店も増えている。	
		旅行代理店（従業員）	来客数の動き	・上期は1日ごとの店頭販売額について、前年割れの日が多かったが、10月はほとんどの日が前年超えとなっている。	
		タクシー運転手	来客数の動き	・10月は天気が悪い日が多かったこともあって、タクシーの売上が前年と比べて10%増加している。運転手不足で車の稼働は落ちているが、会社の売上は前年から5%ほどプラスになっている。	
		通信会社（企画担当）	販売量の動き	・札幌などの大都市を中心にサービス解約が前年よりも減少している。また、新商材への引き合いも若年層を中心に強くなっている。	
		観光名所（従業員）	販売量の動き	・10月は点検工事の影響で主力事業が休業しているにもかかわらず、付帯事業であるレストラン、売店の売上は25日現在で前年比120%と伸びている。飲食、物販の売上が前年を上回る状況は8～9月も同様であったことから、全体としてはやや良くなっている。	
		住宅販売会社（役員）	お客様の様子	・分譲マンションのモデルルームへの来客数が若干増え始めていることに加えて、客の購買意欲も少しではあるが強くなってきている。	
		変わらない	商店街（代表者）	来客数の動き	・薬局、婦人衣料品店、靴屋などに聞いても、どこも若干低めで変化なしとのことである。プレミアム付商品券も利用はほとんどみられないとのことである。
			商店街（代表者）	お客様の様子	・客の様子をみると、冬のボーナスはあまり期待できそうになく、景気もあまり良くないという雰囲気がある。
			商店街（代表者）	販売量の動き	・プレミアム付商品券の効果なのかまでは分からないが、10月の売上は前年をやや上回っており、比較的、安定した推移となっている。外国人観光客も、10月に入ってから再び増え始めている。ただ、外国人観光客については、それほど大きな低下幅ではないものの、客単価の低下がみられ、中国景気の影響があるとの見方も出ている。
			一般小売店〔酒〕（経営者）	お客様の様子	・得意先の寿司屋では、注文も多く、客の来店も多いが、板前の手配が思うようにならず、人手が足りないことで、なかなか売上がつながらないと嘆いていた。働き手を集めることが大変な状況であることから、全体的には景気が上向いている雰囲気がある。
			百貨店（売場主任）	お客様の様子	・来客数が前年比100%と前年並みとなっており、売上も微増している。特に外国人観光客による売上が前年比170%を超えるなど、外国人観光客の伸びに支えられている状況にある。一方、冬物アイテムの動きは気温の低下に伴い、10%以上の伸びがみられるなど、地元客への期待感も出てきている。

百貨店（販売促進担当）	来客数の動き	・ 8月まで好調であった外国人観光客による売上が、9月以降、急速に減少傾向にある。一方で冬物衣料商戦は、例年より早い冬の到来でコートや手袋、マフラーなどの防寒衣料を中心に売上が増えている。また、年末年始のおせちやクリスマスケーキの予約販売も好調に推移しており、外国人観光客の減少分をカバーしている。
スーパー（店長）	販売量の動き	・ 3か月前と比べると、販売量が8%ほど伸びているものの、景気が良くなってきたという実感はまるでない。
スーパー（店長）	来客数の動き	・ 2017年の消費税増税に伴う軽減税率導入に関するマスコミ報道、北海道の最低賃金引き上げの遅れ、台風による天候不順などの影響もあり、消費者の生活防衛意識は依然として高いままである。食品部門の来客数は回復しているものの、衣料品部門と住まい用品部門の来客数はそれぞれ前年比90%、93%となっており、一向に回復してこない。
スーパー（企画担当）	販売量の動き	・ 足元の売上状況をみると、買上客数が増加傾向に転じているものの、客1人当たりの買上点数は伸び悩みが続いている。商品単価上昇の影響から、客の消費行動の慎重さが目立っている。
スーパー（役員）	お客様の様子	・ 相変わらず商品単価が前年から約4%上昇しているが、客単価は前年から約1%の上昇にとどまっている。客1人当たりの買上点数の向上を狙っているものの、思うように上がってこない。ただ、景気が悪いと言われるなかで、安いものばかりが売れているわけではなく、良質の商材をし好する客も増えているが、客が1回の買物支出額をしっかりと管理しているようである。
コンビニ（エリア担当）	来客数の動き	・ 前年比でみると、売上よりも来客数の減少幅が大きくなっている。客の来店頻度が下がり、必要な時に必要な物だけ購入している様子がうかがえる。
衣料品専門店（経営者）	来客数の動き	・ 10月は爆弾低気圧などによる荒天が3回もあり、学校の休校、鉄道や航空機などの交通機関の運休などにより、街ゆく客の姿も少なく、当店の売上も前年と比べて減少した。漁業定置網や農家にも大きな被害が出た影響のせいか、市内のホテルで開催した展示催事への来客数も今一つであった。
衣料品専門店（店員）	来客数の動き	・ テナント入居している施設への来客自体が少なく、当店の来客数も減っている。
家電量販店（店員）	来客数の動き	・ 売上は前年と変わらなかったが、来客数がやや減少している。
乗用車販売店（従業員）	来客数の動き	・ サービス部門の来客数は増えているが、購入見込み客の来店が少なく、まだまだ景気が上向いている雰囲気がない。
乗用車販売店（従業員）	販売量の動き	・ 3か月前と比較して、それほど増減はみられなかった。
乗用車販売店（従業員）	販売量の動き	・ 北海道という土地柄、冬に近づく、この時期は景気が冷え込む傾向にあるが、今年は例年と比べて、1～2週間ほど早い冷え込みがみられることから、車の売行きが悪かった。タイヤ交換などの売行きも例年よりも早く落ち込むことになる。
高級レストラン（経営者）	来客数の動き	・ 観光シーズンも終わり、観光客の入込が悪くなり、年末に向けての歳末商戦がどうなっていくのが懸念される。また、客の財布のひもがなかなか固く、節約意識が高い。
高級レストラン（スタッフ）	販売量の動き	・ 前年よりも少し売上が落ちたが、ぎりぎりのところで変わらないと判断できる結果であった。以前は週末になると客のにぎわいが感じられたが、今は活気がなく、客の回転率も良くない状況である。また、最近の天候不順の影響もあり、降雨の時間帯によってはランチやディナーへの影響がみられた。取引先の農業者や漁業者には、低気圧などの被害を受けた人もいたが、あるタクシー運転手は豪雨の影響で売上が前年を上回ったとの声もあった。
一般レストラン（スタッフ）	それ以外	・ 従業員が不足しており、売上機会を逃がしている。様々な媒体を通して募集活動をしているが、一向に応募がみられない。
スナック（経営者）	来客数の動き	・ 人の動きがみられない。

	スナック（経営者）	来客数の動き	・少し寒くなってきたことで、客の来店機会が減ってきている。
	タクシー運転手	来客数の動き	・売上は前年とほとんど変化がなかった。観光関連の需要が若干マイナスとなったものの、イベント関連の需要は若干のプラスであった。
	タクシー運転手	販売量の動き	・タクシーの売上がほぼ前年並みで推移している。
	通信会社（社員）	お客様の様子	・景気の停滞感は変わっておらず、良い兆しを感じられない。客単価が下がっているなかで、別の商材を追加するなどして、客単価の上昇を狙っているものの、客が乗ってくることはなく、最低限の商材の購入で終わってしまう。これは客の体力に余裕がないためとみられる。
	美容室（経営者）	お客様の様子	・客の来店周期が固定化しており、それに伴い売上も一定水準で安定して推移している。
	美容室（経営者）	来客数の動き	・来客数は前年とほぼ変わらず、この3か月間をみても大きな変化がみられない。
やや悪くなっている	商店街（代表者）	単価の動き	・販売量の動きをみると、高額品と低価格品で分かれ、中間の価格帯の商材の売上が大きく落ち込んでいることから、顧客の二極化がさらに広がっている。
	商店街（代表者）	来客数の動き	・10月は中国人を始めとした外国人観光客とハロウィンの催しによる効果で、例年並みの来街者数を見込んでいたが、外国人観光客については、当地周辺ではほとんど姿を見掛けなかった。また、ハロウィンも、ここ2～3年は10月下旬になると少しずつ来街者が増えてきていたが、今年は郊外の催しに足を運んでいるためか、来街者増加の兆候はみられなかった。
	一般小売店〔土産〕（経営者）	販売量の動き	・市内客、観光客ともに現政権の経済対策に対する期待感が薄れてきているためか、10月の売上は前年比94.2%、前々年比92.4%であった。また、買上客数、客単価ともに前年を8%程度下回った。物価高、マイナンバー制度導入など、客から不安材料の話聞くこともずいぶん多くなった。
	百貨店（担当者）	来客数の動き	・来客数に減少傾向がみられる。
	コンビニ（エリア担当）	お客様の様子	・大雨や雪といった天候要因の影響もあるが、来客数の減少が継続している。新商品などに対する客の反応はみられるが、全体売上にはなかなかつながらず、第1次産業の低迷の影響が感じられる。
	コンビニ（エリア担当）	来客数の動き	・来客数が減っている。
	乗用車販売店（従業員）	販売量の動き	・秋の増販期にもかかわらず、販売台数が予算の80%、前年実績の80%と悪くなっている。
	乗用車販売店（役員）	販売量の動き	・当地域の動向が一向に上向いてこない。今年になって前年を上回った月は1か月のみであり、新商品の投入も売上につながってこない。地場経済の低下と消費者マインドの落ち込みが多分に影響を与えている。
	高級レストラン（スタッフ）	来客数の動き	・ランチタイムは外国人と団体客で満席となる日が多く、2日連続で来店する客もみられた。しかし、10月後半に入ると、ディナータイムは閑散としてきた。全体の売上は前年比で横ばいであった。
	観光型ホテル（役員）	来客数の動き	・外国人観光客の団体需要は堅調に推移している一方で、国内客の予約が取りづらい状態となっている。最終的には、外国人観光客の団体需要のキャンセルが多くみられたことで、全体の宿泊客数が伸びなかった。
	旅行代理店（従業員）	来客数の動き	・10月に入ってから雨の日が多く、洪水の被害もあったことから、農業関連での旅行需要の低下がみられる。また、一部地区でさけの漁獲が不振という声もあり、1次産業従事者の消費マインドの低下が懸念される。
	タクシー運転手	販売量の動き	・夏休みも終わり、観光客が減少しつつある。一方、夜間の利用客は相変わらず少ない。3か月前と比較すると、利用客が約7.5%減少していることからやや悪くなっている。
	タクシー運転手	販売量の動き	・9月の市内の同業他社の売上をみても、全体的に需要が減少している様子が見える。
	その他サービスの動向を把握できる者〔フェリー〕（従業員）	来客数の動き	・今年は特に天候が不順であったことから、フェリーの欠航回数が多く、輸送量が減少した。

		住宅販売会社 (経営者)	お客様の様子	・現政権の経済対策の浸透が地方まで及んでいない。特に不動産の価格がほとんど上昇してこないため、厳しい状況にある。
	悪くなっている	百貨店(売場主任)	来客数の動き	・10月は台風が北海道を通過するなど、強風が吹き荒れたことが3度もあったため、来客数の減少がみられた。アイテム別にみると、コートやジャケットなどは、9月からニットコートが売れていることの反動もあり、前年の90%台となった。一方、物産催事については、ほぼ前年並みの売上であった。
		百貨店(販売促進担当)	来客数の動き	・月初めや中旬の暴風雨などの天候要因、前年との企画催事の違いといったマイナス要因はあるものの、来客数の前年からの減少幅が大きい。また、客の購買率も悪化しており、店舗内の買回り需要が減少傾向にある。
		コンビニ(エリア担当)	来客数の動き	・夜間を中心に来客数が前年よりも悪くなっている。漁業関連の実績悪化が影響し、特に海岸部周辺の店舗での来客数が悪くなっている。
		コンビニ(オーナー)	お客様の様子	・外国人観光客は安定しているが、地元経済の動向が良くない。
		タクシー運転手	販売量の動き	・観光需要が一段落して以降、一般客の需要は前年比で弱含みの推移となっている。
企業動向 関連	良くなっている	-	-	-
	やや良くなっている	-	-	-
(北海道)	変わらない	食料品製造業(従業員)	受注量や販売量の動き	・3か月前と比べて、売上の変動が特にみられない。
		家具製造業(経営者)	受注量や販売量の動き	・大都市圏を中心に高額商材が売れているなど、株高の効果が続いている。
		建設業(従業員)	受注量や販売量の動き	・公共工事減少の影響もあるが、民間工事でマンションや賃貸ビルの新築工事などの受注もあるため、全体としては大きな落ち込みとはなっていない。
		輸送業(営業担当)	取引先の様子	・農産物、医薬品、飲料品の道外への輸送は順調である。しかしながら、水産物の輸出は、さんま、さけが全体的に不漁のため、前年から落ち込む見通しである。
		輸送業(支店長)	取引先の様子	・鋼材類の輸送については、軒並み前年割れが続いている。特段、大きな案件が出てくる話も聞かれず、新規受注やスポット受注も決まっていない状況にある。
		金融業(企画担当)	それ以外	・外国人観光客の大幅増加が続いていることで、ホテル、観光バス、土産物の製造業者、販売業者は好調である。設備投資は、北海道新幹線の開業を控えた観光施設、医療福祉施設などの新增設が活発である。一方、公共投資は工事発注が減少していることもあり、足踏み感が強い。
		司法書士	取引先の様子	・不動産取引や建物などの建築については、ちょうど工事完了時期に当たる期間ということもあり、多少活気がみられるが、全体的には伸び悩みの状況にある。
		司法書士	取引先の様子	・景気回復の兆しが見えてこない。当分、景気の上昇も下降もない状況が続くため、不動産の取引も減少している。また、横浜のマンションの施工データ改ざん問題の動向も気掛かりである。
		コピーサービス業(従業員)	取引先の様子	・マイナンバー関連での出費など、予定外の支出があることで、企業の動向が慎重になっている。
		その他サービス業[建設機械リース](支店長)	受注量や販売量の動き	・依然として受注量や引き合い件数が低迷しており、景気が上向きにある状況とはとても言えない。
	やや悪くなっている	建設業(従業員)	取引先の様子	・設計業界では、前年に施行された耐震改修促進法によって特需となった耐震診断がほぼ終了しているが、強度不足建物の所有者は経済的理由から、補強工事に消極的である。また、新築建物の計画も少なく、全体的に業務量が不足している。
		司法書士	取引先の様子	・例年と比べて、土地の売買、建物の新築が少ない。
		その他サービス業[建設機械レンタル](総務担当)	受注量や販売量の動き	・第1四半期は前年並みの受注量をキープしていたが、第2四半期になり、前年割れの状態で推移している。
		その他非製造業[鋼材卸売](役員)	受注量や販売量の動き	・3か月前は大型案件があったため、売上は好調だったが、その反動で10月の売上は減少した。ただし、消耗資材の売上は微増している。

	悪く なっている	-	-	-
雇用 関連	良 く な っ て い る	-	-	-
(北海道)	やや良 く な っ て い る	求人情報誌製作 会社（編集者）	求人数の動き	・有効求人倍率が高くなったと実際にも感じるようになってきた。
		職業安定所（職 員）	求人数の動き	・月間有効求人数が68か月連続で前年を上回り、月間有効求職者数が47か月連続で前年を下回った。さらに新規高等学校卒業者の管内の求人数が前年から19.9%増加した。
	変わ ら な い	求人情報誌製作 会社（編集者）	求職者数の動き	・前々年の4月ごろから建設関連の求職者が減り始めていたが、ここにきて医療・介護、アパレルなどの販売関連の業種にも影響が及んでおり、人手不足感が深刻になりつつある。
		求人情報誌製作 会社（編集者）	求人数の動き	・若干、前年よりも求人件数が減少しているが、人材不足の建設や介護業界は求人件数を伸ばしている。外国人観光客の増加や秋のイベントなどの効果もあり、ホテル業界や小売など、個人消費関連の求人も増加している。
		職業安定所（職 員）	求人数の動き	・公共事業が前年割れを続けているなか、建設業の求人が前年よりも減少している。
		職業安定所（職 員）	求職者数の動き	・7～9月の新規求職者数を前年と比較すると5.5%の減少となっている。有効求職者数も前年から9.9%の減少となっており、減少傾向に変化がみられない。
職業安定所（職 員）		求人数の動き	・求人数の増加傾向が続いており、月間有効求人数は前年から3.9%増加し、2か月連続で前年を上回った。	
やや悪 く な っ て い る	新聞社〔求人広 告〕（担当者）	求人数の動き	・求人広告の売上上位構成業種が、加工、製造、卸を除き、軒並みダウンしている。特に医療、飲食、環境衛生の落ち込みが大きい。前年比では7%程度の落ち込みとなった。	
	悪く な っ て い る	-	-	-